



# 教員に関する様々な情報をデータウェアハウスに蓄積 独自の指標でモニタリングし、教員人事・大学経営に役立てる

広島大学



## 教員の適切な配置のために、 教員の多様なデータを数値化

広島大学は、10年後に世界トップ100の大学となること、そして研究と教育の両面において最大の成果を出せるよう、教員の適切な配置を目指している。そのために、教員に関する様々な情報をデータウェアハウスに蓄積し、あらゆる視点からデータを引き出せるよう、フロントエンドツールとしてMotionBoardを導入した。教員の業績や活動実績を全学共通の尺度でモニタリングする「AKPI<sup>®</sup>」と「BKPI<sup>®</sup>」という広島大学独自指標を設定し、これらの数値を教員を適切に配置するエビデンス（根拠）として活用している。

広島大学  
理事・副学長 大学改革担当 (2018年インタビュー時)  
相田 美砂子 氏

## Summary

概要



### 背景・課題

- ・ 研究と教育の両面において最大の成果を出せるよう、教員を適切に配置したい
- ・ 各教員の様々な情報をExcelのピボットテーブルで集計するには大きな負担がかかる



### 導入のポイント

- ・ 教員の業績や活動実績を全学共通の尺度でモニタリングするために、「AKPI<sup>®</sup>」「BKPI<sup>®</sup>」という広島大学独自の指標を設定
- ・ 教員に関する様々なデータを蓄積するデータウェアハウスのフロントエンドツールとしてMotionBoardを活用



### 効果

- ・ 教員一人ひとりのパフォーマンスを可視化できるようになった
- ・ 適切な教員人事を行うためのエビデンスとしてデータを活用

### MotionBoard

ビジネスのあらゆるデータを可視化するBIダッシュボード。データを必要なカタチで、シンプルに可視化。

CASE STUDY

## 最適な教員人事に必要なのは、 データに裏付けられたエビデンス

どういった領域で、何人くらいの教員が必要とされているのか。大学の学部・研究科を横断した全体最適の考え方に基づいた教員人事を実現するために、広島大学では、教員に関する様々なデータを管理する「教育研究情報収集システム」と呼ぶデータウェアハウスを2014年度から整備してきた。

ここでは、学術情報サイトに登録されている論文に関するデータ、教務や人事などの各学内業務システムに分散している外部資金、受賞歴、担当する授業科目、履修人数、指導学生などが蓄積されている。そして、独自に策定した「AKPI® (Achievement-motivated Key Performance Indicator)」「BKPI® (Basic Effort Key Performance Indicator)」という2つの指標に基づき、教員のさまざまな活動を可視化しようと試みてきた。



当初は、各教員の情報をExcelに集約し、ポイント化されたデータを積み上げたり突き合わせたりしながら、最適解を導き出すという方法をとっていたが、Excelのピボットテーブルでこうした複雑な集計を行うのは容易ではない。そこで2018年3月、データウェアハウスのフロントエンドツールとしてMotionBoardの導入を決定し、あらゆる視点からエビデンスとしてのデータを引き出せる環境を整えた。「どういった専門性を持った教員が、それぞれ現在どのくらいの教育・研究を担当しているのか、MotionBoard上で迅速に可視化できるようになりました」と話すのは、広島大学 理事・副学長(大

学改革担当)の相田 美砂子氏だ。「今後どういった教員の配置が必要となるのか、どんな後任教員の補充が必要となるのか。数年先を見据えた上で人事の方向性を策定していくには、一人ひとりの教員のパフォーマンスを可視化することが大切になります」と続ける。

以前は、これらのデータは参考情報としてモニタリングされているだけだったが、今後は、人事の適切な判断を行うための客観的なエビデンスとして活用される。その延長線上に、広島大学が掲げている『100年後にも世界で光り輝く大学へ』というビジョンの実現が見えてくる。

## 一人ひとりの教員のパフォーマンスを可視化し、 適切な人事を行うための判断材料として活用

